

横浜市インフルエンザ流行情報 9 号

横浜市医療局健康安全課／横浜市衛生研究所

<<トピックス>>

流行注意報が発令中です

【概況】

第 44 週（10 月 30 日～11 月 5 日）の定点あたりの患者報告数^{※1}は、横浜市全体で **17.01** となり、流行注意報が発令中です。

年齢別では、10 歳未満の報告が全体の 49.5%、15 歳未満の報告が全体の 75.2% を占めています。学級閉鎖等は、第 44 週にて 86 施設（保育所・幼稚園 3 施設、小学校 67 施設、中学校 14 施設、高等学校 2 施設）、患者数は 1,302 人です。

市内迅速診断キットの結果は、累計で **A 型 99.7%**、**B 型 0.3%**、**A・B 型ともに陽性 0.0%**と、A 型が多く検出されています。なお、全国のウイルス分離・検出状況^{※2}では、A 型が多く検出されており、横浜市での検出状況も同様です。

今シーズンは、例年の同時期と比較して患者が多く発生しています。本格的な流行の前に、早めのワクチン接種を検討し、咳エチケットや正しい手洗い^{※3}、^{※4}等でインフルエンザを予防しましょう。

※1 定点あたりの患者報告数とは、定期的にインフルエンザ患者発生状況を報告していただいている医療機関（市内 153 か所）から報告された患者数の平均値です。

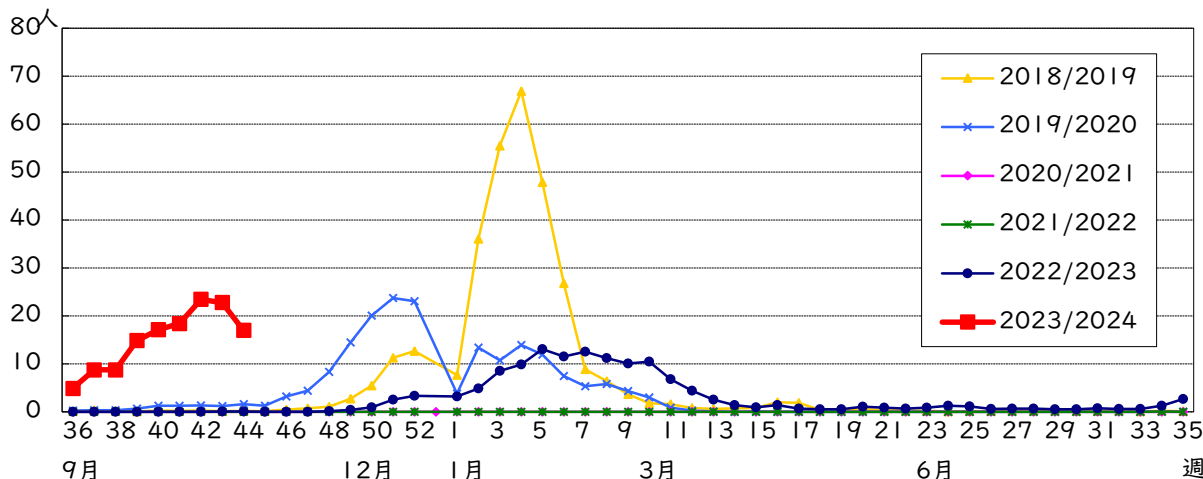
※2 [インフルエンザウイルス分離・検出速報（国立感染症研究所）](#)

※3 [横浜市保健所ホームページ](#)（「正しい手洗い方法」および、掲示用ポスター「石けんで『手』を洗おう」をトップページに掲載しておりますので、是非ご活用ください）

※4 [令和5年度インフルエンザ Q&A（厚生労働省）](#)

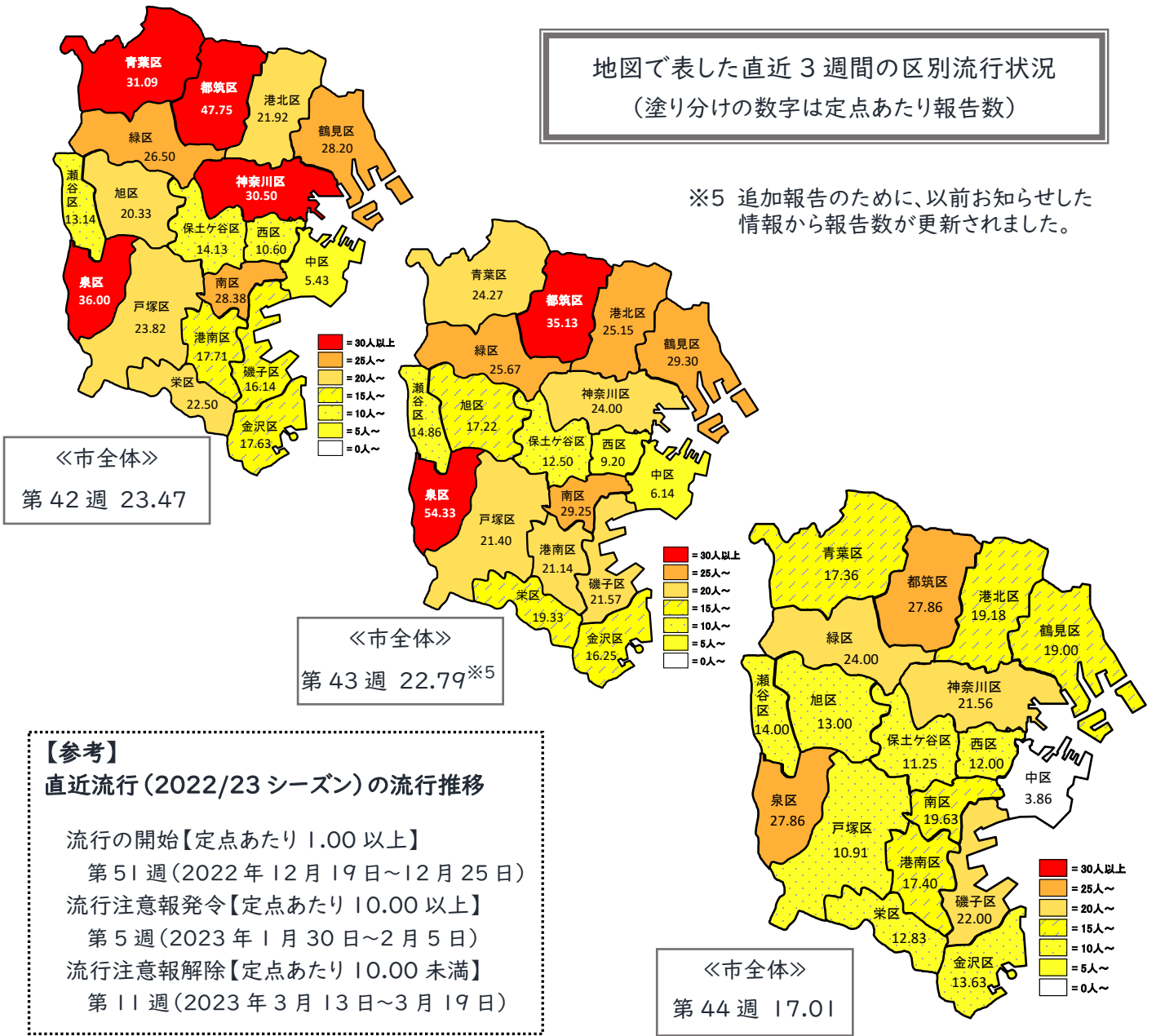
【市内流行状況】

市全体の定点あたりの患者報告数は、2023/2024 シーズン開始の第 36 週（4.91）以降増加が続き、第 39 週（14.86）に流行注意報発令基準値（定点あたり 10.00）を上回りました。第 44 週は 17.01 です。**例年の同時期よりも、患者が多く発生しています。**



地図で表した直近 3 週間の区別流行状況
(塗り分けの数字は定点あたり報告数)

※5 追加報告のために、以前お知らせした情報から報告数が更新されました。



【参考】

直近流行(2022/23シーズン)の流行推移

流行の開始【定点あたり 1.00 以上】

第 51 週(2022 年 12 月 19 日~12 月 25 日)

流行注意報発令【定点あたり 10.00 以上】

第 5 週(2023 年 1 月 30 日~2 月 5 日)

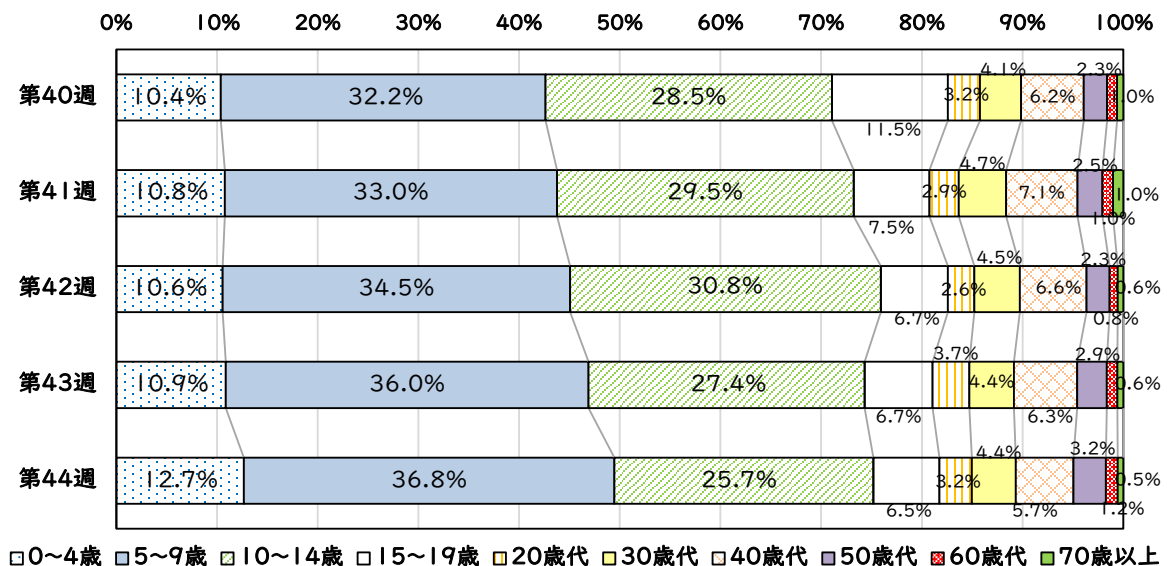
流行注意報解除【定点あたり 10.00 未満】

第 11 週(2023 年 3 月 13 日~3 月 19 日)

【年齢層別集計】

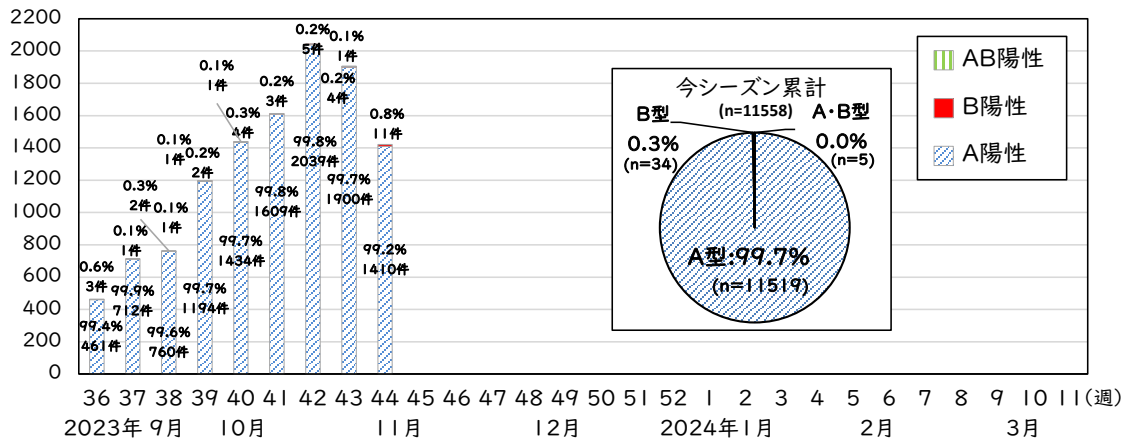
第 44 週の患者年齢構成は、10 歳未満が 49.5%、10 歳から 15 歳未満が 25.7%となっており、15 歳未満が全体の 75.2%を占めています。

年齢層別患者割合



【迅速キット結果】

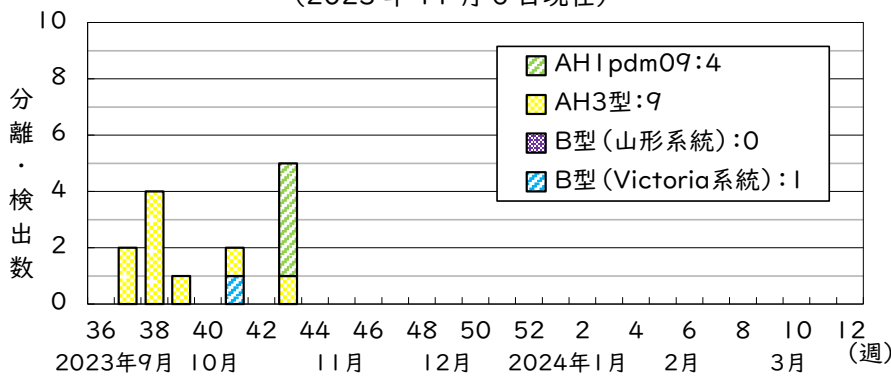
第44週の迅速キットの結果は、A型99.2%、B型0.8%と、ほぼA型が占めています。今シーズン累計は、A型99.7%、B型0.3%、A・B型ともに陽性0.0%です。



【市内病原体検出状況】

市内の病原体定点※6から、AH3型が9株、AH1pdm09が4株、B型(Victoria系統)が1株分離・検出されており、全国の分離・検出状況と同様の傾向と考えられます。

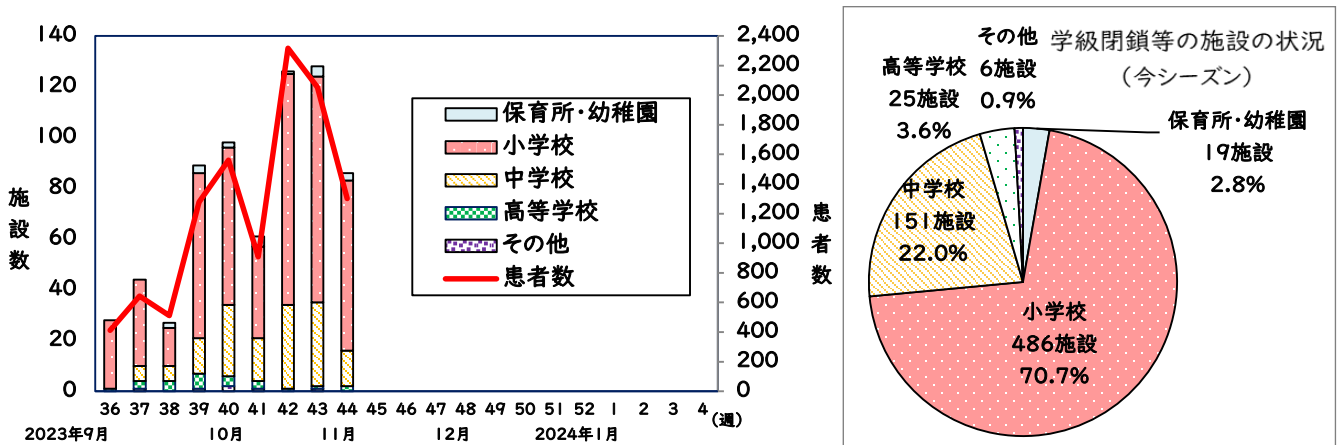
市内病原体定点からのインフルエンザウイルス分離・検出状況 (2023年11月6日現在)



※6 病原体定点:採取した検体を衛生研究所に送付する医療機関で、市内に16か所あります。うち、インフルエンザについては12か所にて採取されています。

【市内学級閉鎖等状況】

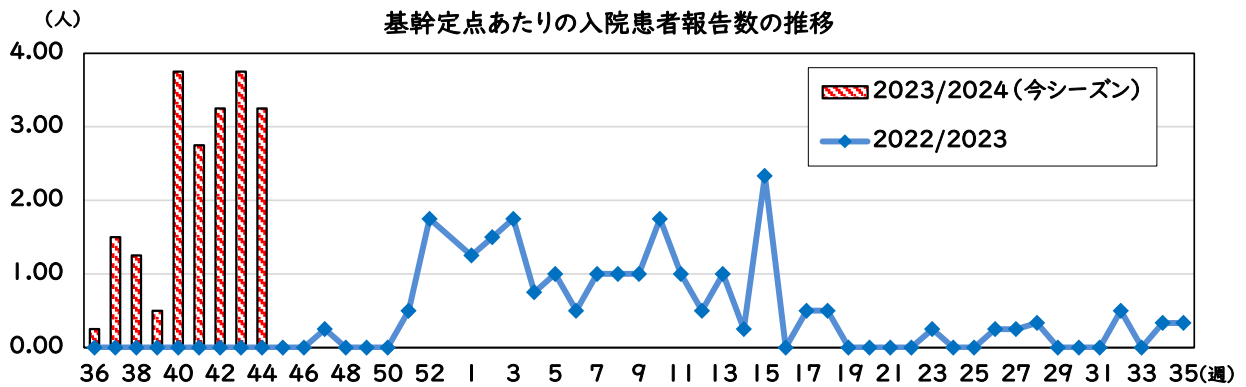
第44週は、86施設の報告(保育所・幼稚園3施設、小学校67施設、中学校14施設、高等学校2施設)があり、報告された患者数は1,302人でした。今シーズンの累計では、第44週までに687施設から報告があり、報告された患者数は延べ10,986人です。報告された施設の割合は、保育所・幼稚園2.8%、小学校70.7%、中学校22.0%、高等学校3.6%、その他0.9%となっています。



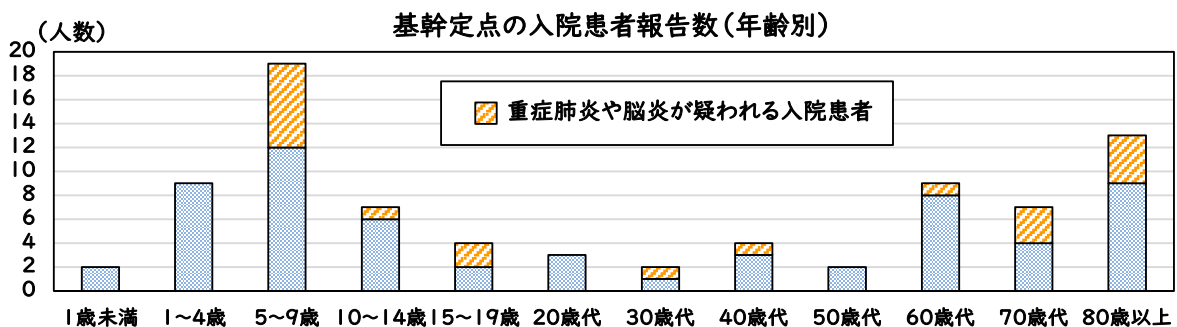
【入院サーベイランス】

市内基幹定点医療機関^{※7}におけるインフルエンザ入院患者は、第44週に13人が報告され、今シーズンは現在までに累計81人（10歳未満30人、10歳代11人、20歳代3人、30歳代2人、40歳代4人、50歳代2人、60歳代9人、70歳代7人、80歳以上13人）です。

入院時の診療内容（ICU入室、人工呼吸器の使用、頭部CT検査、頭部MRI検査等を実施）を把握している重症肺炎や脳炎が疑われる患者数は、第44週までの累計で20人（うち第44週報告数は3人）です。



※7 基幹定点:患者を300人以上収容する病院（小児科医療と内科医療を提供しているもの）の中から、地域ごとに指定された医療機関のことで、市内には4つの基幹定点があります。



※ 小数点以下第2位を四捨五入するため、計と内訳の合計が一致しない場合や構成比の内訳の合計が100%にならない場合があります。

* 参考リンク

近隣自治体の流行状況

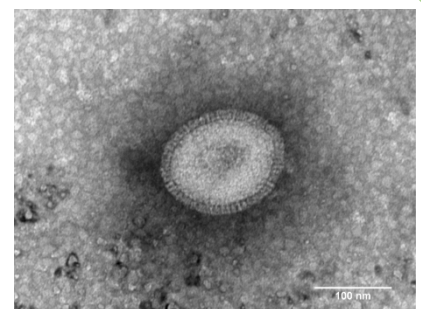
- [神奈川県](#)
- [川崎市](#)
- [東京都](#)

全国の流行状況

- [国立感染症研究所](#)

インフルエンザウイルスの
電子顕微鏡写真(6万倍)

撮影:
横浜市衛生研究所



【お問い合わせ先】 横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課 TEL 045(370)9237
横浜市医療局健康安全課 TEL 045(671)2463